

## 平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月付着動物調査 速報



### ●実施状況

平成 27 年 5 月 14 日に付着動物調査を実施した。天気は晴れで、気温 24.5～25.3℃、風速 2.8～6.6 m/s で途中からやや強めの南よりの風が吹いてきた。当日は若潮で、8 時 4 分干潮、14 時 09 分満潮であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。2 日前に 58.5 mm の大雨があったが、その影響で視界不良が生じていた。

2015/5/14	中央防波堤外側(その 2)東側		13 号地船着場	
調査時間帯	10:00～11:20		11:50～12:50	
水深(m)	6.3		8.0	
天候	晴れ		晴れ	
気温	25.3		24.5	
風向/風速(m/s)	SE/2.8		SSE/6.6	
波浪(m)	0.2		0.3	
水色	緑褐色		茶褐色	
透明度(m)	1.6		1.0	
観測層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	19.5	18.5	20.6	17.6
塩分	23.4	29.7	22.2	29.4
pH	9.2	9.0	8.9	8.7
DO(mg/L)	8.8	6.1	12.9	5.3
臭気	無し	無し	無し	無し
備考	貧酸素の発生は確認されなかった。		付近では赤潮が発生し、透明度が 1m であった。貧酸素の発生は確認されなかった。	

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

### ●調査地点の状況

	中央防波堤外側(その 2)東側	13 号地船着場
概況写真		
備考	中央防波堤外側埋立地の外側岸壁で調査した。	中央防波堤埋立地へ通じる第二航路海底トンネル排気塔の南にある船着場の、西側岸壁で調査した。

## ●観察結果の概要

### ○ 中央防波堤外側(その2)東側

周辺壁面で付着している生物の量は全体的に所々波状の分布も見られたが、調査地点と周辺は同様な様相を示していた。**普通よく見られるイガイ類やマガキ、イソギンチャク類などは活性の高い状態にあった。**

被度（基盤を覆う面積比）が比較的高かった種類は、最も上方ではアラレタナキビ、イワフジツボ、タテジマイソギンチャク、その下方ではムラサキイガイやマガキ、カタユウレイボヤなどであった。また移動性の貝類だが、イボニシやレイシガイが数多く出現し、モクズガニが単体で見られた。

海底に向かってムラサキイガイ、カタユウレイボヤ、ヒメホウキムシ、多毛類の棲管（泥分を主体としたもの）の順に優占する状況が見られ、**周辺の壁面では付着動物の剥離は見られなかった。海底ではイガイ類が生育し堆積していた。**

視界不良のため、広範囲を見ることは出来なかったが、確認できる範囲では例年見られていた嫌気性細菌は確認されなかった。

### ○ 13号地船着場

付着している生物の種類や量、鉛直的な分布も中央防波堤と同様の様相を示していた。

被度が比較的高かった種類は、最も上方ではイワフジツボ、イソギンチャク類、マガキ、移動性のレイシガイ、イボニシ、下方ではムラサキイガイ、ヒメホウキムシ、カタユウレイボヤであった。また周辺でイシガニ類が確認された。

**海底では中央防波堤同様に、生育したイガイ類や貝殻、多毛類の棲管（泥分を主体としたもの）が堆積し、岸壁直下で堆積し沖へ向い深くなる傾向を示していた。また周辺では広範囲での付着動物の剥離は確認されず、中央防波堤と同じく嫌気性細菌は確認されなかった。**

その他の動物としては、節足動物のワレカラ類が多く確認された。同行した専門家の話では、例年5月にお台場を中心とした水域で、多量に発生することがあるとのこと。

## 主な確認種



イワフジツボ（撮影：中央防波堤）

潮間帯の上部に優占した。殻の直径が8mmほどの小型のフジツボで、東京内湾域で代表的な種である。



ムラサキイガイ（撮影：中央防波堤）

外来の付着性二枚貝で、港湾の防波堤等に高密度に付着する。東京内湾域で代表的な付着生物。水質浄化能力が高いことが知られている。



**タテジマイソギンチャク**（撮影：中央防波堤）  
 体の表面に縦縞があるためこの名前が付いた。全国の潮間帯に普通に見られるイソギンチャク。



**カタユウレイボヤ**（撮影：中央防波堤）  
 半透明の小型のホヤ類で、群体を作って付着する。中央防波堤では、下層（AP-2m）付近に高密度に付着していた。



**モクズガニ**（撮影：中央防波堤）  
 もともとは淡水に生息するカニ。産卵のために川をくだり海で孵化した幼生は稚ガニまで成長し再び川を遡上する。



**レイシガイ**（撮影：13号地船着場）  
 潮間帯の岩礁に多く生息する。殻の表面は丸いこぶ状の突起で覆われている。肉食性の貝で、他の貝を補食する。



**イシガニ類**（撮影：13号地船着場）  
 東京内湾域に普通に生息するやや大型のカニ。遊泳脚を持ち移動能力が高い種。大型のものは食用となる。



**ワレカラ類**（撮影：13号地採取標本）  
 節足動物のヨコエビ目ワレカラ科に属する。東京湾にはトゲワレカラ、クビナガワレカラ、オオワレカラ等が生息し、メバル等の磯魚類の幼魚の重要な餌になっている。